

令和4年度 第2回豊中市介護保険事業運営委員会

令和4年(2022年)10月17日(月)

午後2時～午後3時45分

第二庁舎 3階 大会議室

《出席状況》(介護保険事業運営委員会委員総数15名中12名出席)

豊中市介護保険事業運営委員会

◎小野委員、秦委員、近藤委員、芦田委員、今井委員、野津委員、大槻委員、村上委員、
西本委員、上田委員、長尾委員、樋口委員

(◎=委員長 ○=副委員長 委員名簿順)

事務局

福祉部：宮城部長

長寿安心課：北村課長、野田主幹、井上課長補佐、大島係長、畑山係長、島田係長

福祉指導監査課：堂本課長

長寿社会政策課：山岸課長、森本課長補佐、加藤係長、武部主査、図師主査、溝田主事

小林主事、中根

健康医療部：寺田参事兼健康政策課長

《傍聴者》1名

《議題》

1. 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(2024年度～2026年度)の策定について
 - (1) 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けた論点整理
 - (2) アンケート・ヒアリング調査の実施について
2. その他(報告)
 - (1) 特別養護老人ホーム入所申込状況について
 - (2) 部会報告
 - ・生活支援サービス部会

《議事内容》

事務局 それでは、定刻になりましたので、令和4年度第2回豊中市介護保険事業運営委員会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

まず、本日の出席状況をご報告いたします。定員15名のうち、12名の委員が出席しております。したがって、規則で定める委員定数の過半数を超えておりますので、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

■資料確認

■WEB説明

委員長 皆さん、こんにちは。

10月に入りましていろいろ新しい動きもありますが、依然としてコロナは居続けておりまして、会議形態もこういう形で進めさせていただきます。

それでは、議題1に入ります。

議題1

■第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2024年度～2026年度）の策定について

事務局

【資料説明】

〈資料1〉「第9期高齢者保健福祉・介護保険事業計画策定に向けた論点整理」

委員長

国の動向、現在どうということが介護及び介護保険に関して検討されているかというご報告がありました。

その都度都度の報告になりますけれども、皆さんに関心があるところもあると思いますので、まずは今の事務局からの報告に対してご意見、あるいはご質問等ありましたら、オンラインの方は手挙げ機能というのを使ってみていただいて、会場のほうであれば、事務局さん、教えていただければと思います。いかがでしょうか。

結構、先ほどのご報告を聞きますと、いろんな観点から検討されているというのは出てきておりますので、現時点で何かあれば、ご質問なり、ご意見なりいただければと思います。

特にありませんか。それでは第1点目、報告については共有したということですのでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、次の議題に進みます。

事務局

【資料説明】

〈資料2〉「第9期計画策定に向けたアンケート調査」

委員長

前半は、特にヒアリング関係のことが入りました。後半はかなりアンケート全体の、これはもう調査が始まっていく段階ですので、皆さんのほうから何か気になることがあれば、現時点で出していただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

令和2年度の在宅療養支援の歯科診療所のアンケートの回答率、これが48.2%と他に比べて低いようですが、これは何に起因するのかをお聞きしたいと思います。

委員長

低い理由についての分析や検討をされているかどうかということですが、事務局に答えさせていただきます。いかがでしょうか。

事務局

アンケート調査票の中の答えにくい項目であるとか、そうしたことに起因して回収率が下がっているかもしれませんが、現状そこまでは分析はできておりません。ただ、先ほど申

上げましたように、周知をすることで回収率を上げさせていただければと思っております。

委員 分かりました。ありがとうございました。

委員長 何の調査でもそのとおりですが、特に介護分野で回答される方の属性によっては、回答しにくい場合とかを配慮することも当然ありますし、何か構造的な問題があるのだったら対応しますけれども、よく若い人向けのアンケートだったら、SNSなり、そういうのをどんどん使ったらというような話が出てきますけど、恐らくそういう形でもないのだろうなということなので、皆さんからよいご提案があれば、ぜひ出していただければと思います。現時点では先ほどあったように、いろいろやり取りする中で回答率を今後高めていこうと、検討されているということです。

それでは私のほうからひとつ。前半のヒアリング関係のところですが、ケアマネジャーのところ、地域包括もそうかもしれませんけど、今、地域共生社会というのが言われている中で、ケアマネジャーのところに来ている困った事例といいますか、解決できないようなニーズとか、ボーダー上のニーズ、そういうものが来ているのかどうなのか、これ地域包括もそうかもしれませんけど、今までであれば縦割りをつくりながら、そこで解決しましょうということだったんですが、地域共生社会を目指す中では、いろんなどころから相談が入っても、それを解決できる場所に結びつけていきたいと思いますという流れが来ている中で、現場では実際にそういう問題が来ているのかというのを、何らかの形で聞けないかなと思っています。

どういう形で実際のヒアリングに反映させるか、具体的には言い切れませんが、项目的にそのあたり、できないかなということと、同様に家族会にも聞いていくのですが、今回はやはり介護の問題の悩みみたいなのを聞いていきますけど、家族会は介護しながら、それ以外の悩みみたいなのが当然入ってくる可能性がありますので、ダブルケアの話なんかは聞いていくようですが、もう少し広く、広めに聞いてもいいのかなということもありまして、どういう課題を抱えているのかというのを共有できればと思っていますので、そのあたり事務局のほうにご検討いただきたいと思っています。

事務局 このケアマネジャーアンケート調査の中でも調査項目（案）ということでお示しをしていますが、例えば在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の状況についてということで、このあたりは例示させていただきましたが、今、委員長がおっしゃったように、本計画はそもそも地域共生社会の実現や、地域包括ケアシステムに向けてどう進めていくかというところの現状把握を行うためのアンケートになっておりますので、当然その視点を持った上で進めていきたいと思っております。

アンケート項目がこのように案としてございますが、この前後のあたりで地域包括支援センターや介護保険事業者連絡会、生活支援コーディネーターにヒアリングをしてみたいと思いますので、アンケート調査ではなかなか把握が難しいところの深掘りをヒアリングでしっかり押さえたいと考えております。

委員長 私は特にそのヒアリングでそのあたりを聞けないのかなと思っていたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一つ、これは皆さんと共有しておきたい点ですが、生活支援コーディネーターも出てきますけれども、この場合、豊中で今考えているのが、いわゆる高齢者分野の意識がどれぐらいなのか、それ以外の分野にも広げて考えているのか、そのあたりを事務局の見解を含めて共有しておきたいと思うのですが、今回の調査も直接関係しますので、生活支援コーディネーターの範囲をどう考えているかということを確認させてください。

事務局

生活支援コーディネーターが何たるかというのを言いますと、あくまで高齢者の社会参加と生活支援サービスを提供していくという、事業の枠組みの中で動いていくというような考え方しか申し上げることができませんが、このあたりはかなり線引きが曖昧になっているかなというところは実感しております。後ほど生活支援サービス部会の生活支援コーディネーターの報告のところでも触れさせていただきますが、例えばシニアの居場所ということで、「豊中めぐり」が運用されておりますが、このあたりは高齢者の社会参加のみならず、多世代交流ということでも、場づくりというのが地域でなされているというのが現状でございます。

それから、子供に対する支援ということでも、こういう福祉活動団体が横に連携を取るところが事例としてございますので、その延長線上で地域共生社会の実現に向けて進めていけるのではないかなと考えております。今、今後の在り方については語ることはできませんが、地域の実情としては以上でございます。

委員長

恐らく豊中市などがそういったことをリーディングしていくんだろうと、私は今、豊中に住んでいませんので、逆に周りから見るとそういうふうと考えられますので、ぜひ意識的に取り組んでいただければと思っていました。ありがとうございました。

皆さんのほうからいかがでしょうか。ほかに気になるような点がございましたらお願いします。

委員

社協の生活支援コーディネーターですが、高齢者の課題という形で、高齢者だけというわけにいかなくて、高齢者介護とか支援が必要な高齢者の世帯に入っていくと、そこに何十年も引き籠もっておられる方がいたり、高齢者だけに線を引いて、世帯の課題だけで済むことがなかなかなくて、そこに虐待の問題があったり、いろいろな問題が含まれているので、それを丸ごと引き受けて、生活支援コーディネーターから社協の支援スタッフにつないだり、その間の見守りを地域の校区福祉委員や民生委員さんをお願いしたり、一体的に線引きとしてはありますが、実際に動く現場としては、今、委員長がおっしゃられたような形で動いているのが現状であります。ですから、かなり福祉課題も広範囲に広がってきているので、この問題は初めの論点整理のところでも出てきたのですが、いろいろな問題が出てきているので、そこを上げていくための計画が必要かなと思っていますところ。

委員長

そうですね、本当に縦割りですっきりつくってきたものが、それだけではちょっとなかなか難しいところが生まれてきているところをどうしようという段階に入っていると思いますので、でも縦割りは縦割りでももちろん重要ですので、そのあたりをどう組み立てていくかということが、その地域ごとの工夫になっていくのだろうと思っています。

先ほどのアンケートの中に在宅関係の診療所ですとか、歯科診療所あるいは薬剤関係のところも出てくるので、そのあたり何か気になるような動きとか、ございませんでしょう

か。

委員 前回、ページ 29 の問 18 の 4)、「前歯がなくなったら幾らお金をかけますか」という設問は要りますかという問いをしましたが、修正がないのでこのまま通ったようですね。それ以外は特に気になりません。

委員長 なるほど。先生の感覚としては、やっぱりこれを聞いてどうするんだ、ですか、それともやっぱりこれは重要だ、ですか。

委員 これを聞いてどうするのかなと。

委員長 幾らぐらいかけるのかと。

委員 いや、もし聞くのなら、逆に結果を知りたいなとは思いますが、個人的には。

委員長 そうですね。恐らく前歯というのが引っ掛かるのですかね。

委員 感覚的な奥歯と前歯の値段のことを聞く必要があるのかなというのは、今でも思っていますけど。

委員長 なるほど。まず、皆さんのほうからご意見いただければと思いますが、同様に薬剤師会としては、いかがでしょうか。

委員 特に言うことはないのですが、在宅に関しましては、どこかを介してということが非常に多いので、我々薬剤師としては、店頭に来られたときに問題点があれば、ケアマネさんと相談するような形で介入するというのが多いと思いますが、今のところは特にございません。

一番多いのは、やはり実際に店頭に来られてから、この方が非常におかしいからということでケアマネさんに相談するとか、逆にこちらから願いますという場合が結構多いです。最近、そういうパターンが非常に増えているように思います。

委員 あのアンケートの内容はとても重要かと思っています。委員長がおっしゃってくださった意見聴取の内容は、ととてもしてほしいと思いますが、逆に今、包括単位でそういうのを解決しようという動きもありますし、先ほどの薬剤師さんのお話で、薬局から直接紹介して、それに一緒にチームで動くというのも度々あることですし、今お聞きしたお話は全て、豊中市の中で何かしらあります。それらをお聞きしながら、総論として思うのは、やっぱり豊中市は大き過ぎるのかなと。40 万人がこのエリアに住んでいるということは、最初に出ていた農業の話もありますけど、ああいうのも各地でやっておられますし、ケアマネはそういうインフォーマルサービスにも結びつけなければいけないということで、把握はしなければいけないのですが、やはり各地域にいろいろあって多過ぎるなと感じました。

それから、包括は 7 圏域ありますが、3 圏域ぐらいに絞ってお話しできれば、もっとリアルな話ができるのかなと思いました。今このアンケートを始めるときに、こんな意見を言ったら大変ですが、本当に 40 万人っていうのは多いんだなと、聞きながら思いました。

委員長 ありがとうございます。私は地域福祉なので、基本的な考え方は、豊中といたら小地域の活動ということで、やっぱり小学校区が頭の中に入ってしまうので、でもやはり介護保険とか、特に医療圏域なんかは全くレベルが違ってくるので、どのぐらいの広がりかで考えていくかというのは結構重要だと思いますけど、行政の立場で考えたら 40 万人なんでしょうね。生活している人たちの単位の考えようというのは近年の流れだと思いますので、そのあた

り今のようなご意見もいただければと思いました。

実際に関わっている人と受けている側、今回のアンケートでも施設入所をされている方にも聞いていくということもありますし、非常に面白いという言い方はあれですけど、やはりこれまではサービス提供者側がどんなふうにやっていますかというのは結構ありましたし、せいぜい介護者の会あたりもありましたけど、サービスを受けているご本人はどうなんだというあたりのところをどう把握していくかというのは非常に重要だと思っていますので、そのあたりもまた皆さんからご意見がいただければと思っています。

委員 前回、ケアマネジャーさんが減ってきているというお話がありましたが、全国的な動向も踏まえて、確かに5万人を切ってから右肩下がりで下がっているわけではないにせよ、たしかここ2、3年は5万人前後で推移していると思います。そういったところで、地元豊中の中でもケアマネジャーさんの数がというところがあったと思いますし、それにちょっと乗っかって、私のほうから地域包括支援センターの立場で、なかなか委託がしにくいというお話もしたと思うのですが、そのあたりは事務局から何のリアクションもなかったかと思いますが、いかがでしょうか。ちょっと実務的な業務に対する負担感につながるのかなと思うのですが。

委員長 それではまず今のあたりまで含めて、事務局のほうから少しお答えいただきたいと思います。

事務局 地域包括支援センターのヒアリング調査では、業務に対する負担感が圏域ごとに違うと思いますので、状況についてはヒアリングでお伺いできればと考えております。

委員長 あと、地域包括とケアマネの関係性、うまく委託がいくのかどうなのかという部分も少し気になるというお話がありましたが、把握されているかどうかも含めて、いかがでしょうか。

事務局 地域包括支援センターの特に介護予防のケアプランは地域のケアマネさんに委託をすることが少し難しくなってきているといったことは、包括の方々とお話しする中で課題として上がってきております。包括が予防のプランを自分たちだけで持っていこうとすると、包括の総合相談業務や、権利擁護業務、こういったところも今日のお話の中でもありましたが、高齢者の複合化した課題が増えて対応する中でかなり時間と労力を取っているというのが、現状であると聞いております。ただ、こういった特に介護予防のプランについては、地域のこの豊中市全体の中でどのようにして介護保険関係の皆様と協力していったらいいのかというのは、地域包括の現状として考えていきたいところでありますので、大きな課題としては、事務局として共有しているところでございます。

委員 よろしくお祈いします。今、介護予防に絞って言われましたけれども、豊中市の現状を私、知っているわけではないです。知っているわけではなくて言っているのですが、介護予防だけではない場合もあると聞いておりますので、そこを含めて問題意識を持って、ちょっと集中的に聞いていただければと思います。よろしくお祈いいたします。

委員長 ほかにいかがでしょうか。気になるところがございましたらお祈いします。

先ほどの前歯問題を何か確認しているかどうかだけでも聞きたいですね。前歯がなくなったら幾らかけますかというあたりの意図ですね。

事務局 前回、ご意見をいただきまして、こちらの事務局に確認はしているのですが、先方からまだ回答をいただけておりません。再度確認して、ご回答させていただければと思います。すみません。ですので現状まだ答えられる回答は持ち合わせておりません。

委員長 分かりました。では回答があったらまた共有するというところでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、次に進んでまいります。特別養護老人ホームの入所申込状況についてということになります。

議題2

■その他（報告）

事務局

【資料説明】

〈資料3〉「特別養護老人ホーム入所申込状況について」

委員長 いろいろご意見はあるかと思いますが、まず感想レベルでも、意見レベルでも結構ですので、いかがでしょうか。

単純なことを言ったら、去年と比べて申込者は増えているし、入れてない人も増えているということですね。あと、先ほどの必要な人が入れているかということに関しても、必要な人が十分入れてないんじゃないかみたいなどころは見えてくるということではありますが、もうちょっといろんな見方が当然あると思いますので、いかがでしょうか。

もう一つ言えば、地域包括ケアシステムは、できるだけ長く地域で暮らしていこうというところも一方にはありますので、そのあたりとの対応の見方みたいなことになるんだろうなと思いますけど、どう解釈していくかみたいな感じですね。

委員 特養の入所手続をするケアマネとしての立場から言いますと、自己採点して申し込みますよね。必要度数というのは点数制になっているはずなんです。その点数というのは、この最後の「必要性が高いと考えられる者」に含まれていると考えてよろしいのでしょうか。

あと、感想ですが、必要性が高い者を特養単位で毎月、会議でやっていただいていますので、結構なスピードで1年弱ぐらいで、必要性が高い人から優先していただけているので、入っていったようなイメージでもあるんですね。でも、そういったのは数字で出すのは難しいのだろうなと思います。要は誰でも申込みは可能ですけど、点数が低いままであれば、いつまでも待ちますし、そういうのがこの表で見えるようになったほうが、待っている人が多い「待ち」というふうにならないと思いますし、必要性の高い人ほどある程度入れるようになっている「待ち」というふうにも見えるでしょうし、もったいないかなと思いました。

委員長 ありがとうございます。まず、最初の、自己採点をやっていると思うけど、それはここに出てくる、いわゆる必要性が高いという、その数字とつながっているのかどうなのかというあたり、確認をお願いします。

事務局

資料を共有させていただきます。こちらの入所希望者のうち入所の必要性が高いと考えられる者というのが、あくまでもこの表のうちの入所希望時期と要介護度から割り出した、入所の必要性が高いと考えられる者になっておりますので、各施設で点数をつけて、この人が入所の必要性が高い、ではなく、申し込んだ人が要介護3の方であれば、3か月以内に入りたいと希望していれば、入所の必要性が高いと考えられる者というところに入ります。

委員長 つまり本人及び家族の希望でその3か月以内に入りたいよということになると、必要性が高いというふうに認めていくという意味ですか。

事務局 そうですね。施設の名簿で恐らく入所の希望時期も管理されていると思いますが、単純に市としては、その名簿の入所希望時期を提出いただいて、そこから割り出した数字になっています。

委員長 例えば、先ほどは1年以内の方が出ましたけど、1年以上の方でも、例えば要介護5でも、1年以上でも18の方が待っているのですが、その方が特に希望してなければ、優先順位が高いというふうには認められなくなるということですか、1年以上待っていても、要介護度が5であっても。

事務局 そうですね。この表上では、1年以上という希望をされている方は、入所の必要性が高いと考えられる者としてのカウントはされません。

委員長 この表の見方として、(5)には、本人の希望を書いているということなんですか。1年以内に入りたいのか、3か月以内に入りたいのか、1年以上でもいいよとか、それが書いてある表という、そういう見方ですか。

事務局 そうです。利用したい方の希望時期です。

委員長 なるほど。だから、本人の希望が3か月以内のほうが強いっていう、そういう見方をしようという、そういう意味ですね。

事務局 そのとおりでございます。

委員長 なるほど。結果を出したわけではないのですね。はい、分かりました。すいません、私もきちんと見ていなくて。

そういうことだそうです。ですから、これ、本人意向が示されているもので、それを要介護度別に分けたということだそうです。

先ほど、ちょっとお話があったところでいくと、結構実は送り出すほうと言うと何ですが、ケアマネのほうから見てみると、必要な人がちゃんと入れているようにも見えるんだけど、そのあたりの評価としては、事務局としては何かこう見えているんですか。

事務局 そうですね、この資料上は、先ほど申し上げたとおり、現状の申込者の中から希望時期と、介護度に分けた資料となっております。こちらを基に施設整備数というのを計画の中で考えていくのですが、その際には各施設の年間の入退去者数を見ていきます。ですので、単純に言いますと回転率といいますか、それを管理しながら施設整備数を考えていきます。ただ、こちらの資料では、その1年以内の入退去率については記載しておりません。

委員長 なるほど。それ、なかなか微妙な問題なんでしょうけどね。でも、そこでいくと、ある程度必要な人は入っていているような状況だというふうに見られるってことなんですかね。

事務局 現在、入所の必要性が高い人というのは、今年度では262人という数字が出ておりますが、単純に入退去者の回転の中に262人の枠が確保できれば、豊中市として年間という考え方なんですけど、考えたときに豊中市ではその262人が1年以内に入れる状況を目指して施設整備を考えておりますので、262人の枠がその回転の中で確保できるのであれば、施設整備はゼロ床という形になるかと思えます。

委員長 今のお話を私が理解した限りでは、262人という数が出ましたけど、その中でうまく回転

ができれば、それほどの待機がない形で利用ができるような状態になっているのが現状だ
という、そういう理解でよろしいですかね。

もう一つは、先ほど言ったように、地域包括ケアシステムが目指す姿として、ではどのぐ
らいの数字が妥当っていうのは変ですけどね、考え方としてどうなっていくだろうと。在
宅でということだけが最終目的ではないにせよ、方向性としてできるだけ在宅でというバ
ランスをどう考えていくかというのが、恐らくこういう場でさらに検討していくことなん
だろうなどは思いながら、でも現状としては今のところ、入所型のところとのある程度のバ
ランスを取りつつやっているんだということを、今ご報告があったということです。

事務局

少し補足をさせていただきますと、この表は、先ほど事務局が申し上げたとおり、ご本人
の希望と介護度だけで必要度が高いというように見る表になっています。

委員が言っておられた必要度数の点数というものは、特にこれには反映されていません
ので、そういう見方でみていただいたらいいかと思えます。また、特養の入所がどれぐら
いかという話で、今ケアマネをされている委員から、必要度の高い人は入所できているよ
うな感覚を持っているというお話がありましたが、なかなかそれは数字にすぐには現れてこ
ないので、今後ケアマネさんに話を聞いたり、事業所さんにヒアリングをしていくなかで、現
実の感覚として把握したいなと思っています。

今後市民さんにアンケート調査をいたしますが、最期は家にいたいとか、どこに入りた
いとか、そういう希望の項目も聞いていきますので、その数字も見ながら、施設について
はど
ういうものが一番整備されるべきなのかということを検討していきたいと思っています。

委員長

ありがとうございました。そういうことだそうです。

ですから、今のところは、今日のデータはどちらかというにご本人が言っている必要度数
で、もう少し専門職の立場からの視点をどうするか、今後ヒアリングの中で確認してい
って
もらうということよろしいでしょうか。

では続いては、部会報告なんですけど、時間の都合上、資料の説明は割愛させていただ
いて、
画面共有はできますか。

では事務局から簡単に項目だけ説明をお願いします。

事務局

【資料説明】

〈資料4〉「豊中市生活支援サービス部会について（概要）」

〈資料〉「これからも豊中で！いきてゆくフェス 2022」

事務局

次回の運営委員会ですが、来年2月13日を予定しております。詳細につきましては、改
めて開催案内をお送りさせていただきますので、ご確認ください。

それから今後のスケジュールについて簡単に共有させていただきます。

第1回の介護保険事業運営委員会でも提示をさせていただいておりましたスケジュール
表ですが、第2回、10月というところが網かけとなっております。今回の議論が第9期計
画策定に向けた検討の論点等ということで、国の内容についてご報告をさせていただきました。
2つ目がアンケートのヒアリング調査についてということで、高齢者アンケート、あ
とは関係機関へのアンケート・ヒアリングについてご報告、また概要の案について提示をさ
せていただいております。

今年度は、3回の開催となっております、2月に3回目を予定しております。こちらでは、アンケート・ヒアリング調査の結果、速報値についてご報告をさせていただく予定です。こちらにつきましては、高齢者アンケートの速報値の報告となっております。引き続き、第9期計画策定の論点についてでございます。今年度は2月が最後の運営委員会となっております。

次年度につきましては、年間4回を予定しております、計画の素案作成、保険料、介護サービスの見込み等の答申をいただく予定としております。

委員長

次回は来年2月ということですので。それではこれで本日の介護保険事業運営委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。